

令和元年度 わかば保育園 「職員自己評価」

1 項目別自己評価

A:十分達成されている B:達成されている C:取り組んでいるが、成果が十分でない D:取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価 (%)			
		A	B	C	D
方針理解	1 園の保育・教育目標、本年度の重点目標を共通理解して取り組んでいる。	2 4	6 2	1 4	
保健管理	2 日常の健康観察や、疾病予防のため細心に注意を配っている。	3 3	6 2	5	
安全管理	3 事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルを生かして対応している。	2 8	6 2	5	5
組織運営	4 園長は目標の達成に向け、職員をサポートしながら、リードしている。	9 5	5		
	5 係の活動では内容の充実を図るために連携して、取り組んでいる。	2 3	6 2	1 0	5
研修	6 積極的に研修に参加して学んだことを生かした取り組みをしている。	5	7 0	1 5	1 0
園児捉え	7 日々の保育を振り返りと課題を明確にしている。	1 0	7 5	1 5	
情報提供	8 クラスや園の情報を保護者や地域に的確に伝えることに配慮している。	1 9	6 2	1 9	
連携	9 保護者や地域と連携して子育てをしようとしている。	2 8	6 2	1 5	
保育環境	10 子どもの成長にそくした教育環境になるよう工夫を重ねている。	2 0	5 5	2 0	5
クラス活動	11 「子どもの感性を育てる」ための活動を子どもの思いを生かして取り組んでいる。	1 0	5 5	3 5	

2 今年度の自分の取組・園の取組を振り返ったとき、良かったなあと思えること、課題は何ですか。

(1) 自身の取組・保育を振り返って

- 自分がやってみたいことを子どもたちに合わせて無理なく楽しくできた。
- 畑での活動で、生物の育ちや変化を子どもと共に実感できた。
- 担当の子どもが笑顔で一日過ごせるように支援をしてきた。
- 限られた時間の中で効率よく仕事ができるように努めてきた。
- 様々な研修に参加して、そこで学んだことをかなり取り入れることが出来た。
- 見通しを持って保育をすることが出来た。
 - ・ 絵画指導では、どこがポイントかを考えて取り組めたらよかった。
 - ・ 指導の中で教え込むことが多く、子どもの発想を生かしていく活動ができなかった。
 - ・ 他園の実践を見に行く機会があったが、自分でどう取り組むかが課題
 - ・ 複数担任では、コミュニケーションを取っていくことが大切だと実感した。些細なことでも声を掛け合うこと。
 - ・ 未満児でも環境や身近な自然と深く関わることができる継続的な取組を工夫したい。
 - ・ 手作りの遊具は子どもたちの目の輝きが違う。今後も取り入れたい。
 - ・ 「個」を大切にする保育のあり方を知ることができたが、実際にどのようにしていけばよいか。
 - ・ 子どもの「こうしたい」「どうして？」を引き出し、組み立てていくことの難しさを感じた。
 - ・ 子どもたちに考える機会をできるだけ多く設定した。子どもたちの意見を受け入れる上で何を取り入れていくべきか判断に迷うことがある。
 - ・ 子どもの姿を見ているとどう対応したらよいか迷うことがあるが、悩みながらも子どもの気持ちを大切に保育をしていきたい。
 - ・ ホームページに日常の子どもたちの様子を掲載できるようにしたい。写真に載る子どもに偏りのないようにしたい。
 - ・ 仕事に優先順位を決めて能率良く行いたい。
 - ・ おはなし会の内容や対象等を考え直したい。
 - ・ 子どもの心の動きに気づける保育者でありたい。
 - ・ 子どもを長い目と広い心で見たい。
 - ・ 努力しているつもりではあるが、子どもの気持ちにより添う難しさを感じる。
 - ・ 園庭活用マップをもっと有効活用したかった。
 - ・ 加配ということを意識しすぎた。「自分だったらこうしたい」「どうしたらもっとよくなるのか」常に意識していきたい。
 - ・ 大量調理、衛生管理、アレルギー食、離乳食、未満児と以上児の違いなど気をつけることが一杯で必死でした。
 - ・ 園職員の一人として共にあるという意識が薄かった。
 - ・ 調理員ではあるが、運動会や餅つきなどの行事に関われたことがよかった。

(2) 園の取組を振り返って

- “子どもの豊かな感性を育てる” という目指す方向に向かってみんなで取り組んできたこと。
- 他園に研修に出かけて、その園での取組をもとに情報交換ができたこと。
- 子どものキラッとした姿を保護者にも知らせていることで、保護者の理解につながっている。
- 子どものキラッとを紹介し合える時間がとてもよい。
- 枠にはめないで、子どもたちや保育者のやりたいことができること、実現できる喜びを感じた。
- 何をやるにも、結果より過程を大事にして楽しもうとする雰囲気がいい。
- 継続的な活動をしているために、職員も日々驚きや学びがある。
- 子どもたちが興味や関心を持って取り組める本物の価値を知った。
- 子どもの年齢の応じた取組により、好奇心を生み出すきっかけがみられた。
- 子どもの発する小さな発見を大事にしようとしている。
- 本物との出会いは、貴重な体験となっている。 ○五感に働きかける活動が沢山できた。
- 生き物飼育をする中で、子どもの興味や関心の幅が広がった。
- 未満の子どもも畑の活動では自分で土手を上り、作物に近づいて変化を感じたり、収穫をしたりすることで捉える力とたくましさをも身につけた。
- 蚕の飼育が命に対する学びにつながっていた。子どもの年齢に合わせた関わりにより深い学びの育ちがみられた。
- 飼育や栽培を通して子どもが発見したり、疑問に思ったりすることができることがよい。
- ぼかぼか畑で育てたいものを先生が考えて、楽しみながら栽培をしていたことが良かった。先生が楽しそうだから子どもも楽しい。いい流れができてきた。
- 飼育栽培活動を通して、子どもがどんどん主体的に活動して、キラッと輝く姿が見られた。他の先生の子どもの捉え方を知ることで、様々な見方を知ることができた。
- 各学年の様々（おやき・ポップコーン・きなこ・あんこ・ほしいも・切り干しダイコン）な取り組みに刺激をもらった。
- 収穫したものを一手間加えて味わえるようにしたことが、子どもにとっても保育者にとっても面白い。
- 畑に足を運ぶたびに、子どもたちは「自分たちの野菜」という感覚で楽しんでた。
 - ・ 給食の先生方と園の目指しているところを共有できるように情報交換をしたい。
 - ・ 自然との関わりで子ども自身が探究していくためには、保育者はどうあったらよいか。
 - ・ 各学年の取組（過程）を伝え合うことで、自分のクラスにも生かせるようにしたい。
 - ・ 活動に急な変更等があり、時間の調整に苦労した。見通しと連絡を密にしたい。
 - ・ 感染症や食中毒について研修を深めたい。
 - ・ 保育士の先生方ともう少しコミュニケーションをとり、味・大きさ・盛り付けなど工夫できればよかった。
 - ・ 園の行事に関わる食事への対応の意識が薄かった。
 - ・ ぼかぼか畑の野菜の調理を現場としてはもう少し一緒に考えられたら楽しかったらうな。

3 来年度 取り組んでみたいこと

- ・ 「わくわくの日」（クラスや学年の枠を超えて自由に活動できる日）の実施
- ・ 優しい気持ちや思いやりを育む上で異年齢での活動を取り入れたい。
- ・ 蚕の飼育に取り組む中で、子どもの気づきや関わりをみていきたい。
- ・ 子どもの人間関係を把握できるように、園全体で子ども理解の時間をとれるようにしたい。
- ・ 種や苗から育てて、生長－収穫－食す という流れができてきている。継続したい。
- ・ 子どもの気持ちを大事に、園が大好きでいられるような様々な活動ができるようにしたい。
- ・ 未満児も畑で何か作ってみたい。保育者としても自分たちの畑意識になれる。
- ・ 畑での収穫物を使って食べるころまでつないでいくことは本園の特徴として大事にしたい。
- ・ 来年畑で何を作ろうかと考えるのが楽しい。・ オクラを作ってみたい。
- ・ 自由遊びの時間をどう充実させるか。手作り遊具を考えたい。
- ・ 外遊びの当番は学年1人は当たると、危険が少なくなる。
- ・ 園庭の環境を広げ、充実させたい。
- ・ 昔の遊びを子どもたちに広めたい。・ 太鼓の演奏会をしたい。
- ・ 事務処理を効率的に行えるように工夫していきたい。
- ・ 定時退庁ができるように仕事を能率よくやりたい。
- ・ 廊下をもっと有効に使いたい。・ 園舎内に活動コーナーを設置したい。
- ・ 桑の葉を取りに行く時間の確保を考えたい。
- ・ 自由給食の時間を設けてみたい。
- ・ 給食調理員も園の行事にも可能な限り関わっていききたい。
- ・ 園直営の調理室であることから、園としての特色が出せる給食が出来たらと思う。
- ・ 給食作業のスキルアップに心がけたい。
- ・ 保育士の先生方と話を取る時間を取ることで、より子どもに合った食事を提供していきたい。

来年度への展望

(1) 本園のよさ

- ①子ども一人ひとりのよさ（気づきや発想・取組など）に着目した、子どもにとらえをしようとしていることで、子どもが自己肯定感をもって主体的、意欲的、創造的に活動をしようとしている。
- ②地域や保護者の方が園の方針を理解して、園運営に協力をしていただき、子どもの育ちをバックアップしていただいている。
- ③豊かな実践をしている他園の取組に学ぶ研修に積極的に出かけて、学んだことを自分の実践に生かそうとしている。
- ④指導者としてどんなクラス運営をしたいのかを真剣に考えて、創意工夫をした環境設定や取組をしようとしている。

(2) 課題への対応

園の保育・教育目標（「相手意識」「本物」「共感」）や保育所保育指針が示す「育てたい10の姿」を意識しながら、子どもに豊かな感性が育つ保育をどのように進めていけば良いか。

- ①「子どもに寄り添う」とは？・・・子どもの心の動きに気づける保育者に「自由」と「放任」は違う。子どもを好き勝手にすることではない。
「支援を要する子ども」への支援の仕方 「個」と「集団」
- ②「育てたい10の姿」をどう意識して、環境を設定したり、子どもをとらえたり、指導を組み立てていけばよいか？
- ③「飼育」「栽培」の活動をどのように取り組めば充実できるか？
- ④午前中の「自由遊び」の時間をどのようにしていけばよいか？
- ⑤園内（廊下や絵本の部屋等）に子どもたちが興味や関心を持って関わられるスペースを設置を。
- ⑥週案の簡素化により、中身の充実と時間的短縮を。
- ⑦保育力の向上により「保育の魅力」を感じ取りたい。
※ 先進的な保育園等への参観と報告会
※ 「研究は保育力の向上策」としてとらえて、研究テーマを意識した活動を。
- ⑧給食室との連携のあり方・・・園の職員として
※ 行事食の見直し
※ 「アレルギー食」への丁寧な配慮



令和2年度のキーワード??

体を使う 頭を使う 人と関わる

豊かな感性（探究心、創造性、表現力）の育成を目指す